

今回のインタビューは、昨年行われた第62回広島県高校駅伝競走大会において準優勝に輝いた広島国際学院高等学校陸上競技部の黒田貴久監督にお願いしました。

聞き手／西田 祐三 委員長

熱烈峻厳

広島国際学院高等学校陸上競技部監督

黒田 貴久 さん

「全ての人の応援される選手に」

●陸上競技部はいつ頃からあるのですか？

昭 和二十六年二月(当時)に福山―広島間で行われていた中国駅伝・高校の部に、寄せ集めのメンバーで出場したことをきっかけに創部したと聞いています。その年の十一月には、広島県高等学校駅伝競走大会に参加し、第一回から連続出場しています。今年で六十三回目を迎えており、連続して出場している高校はわずか四校だそうです。

●どのような活動をされていますか？

全 国高校総合体育大会(インターハイ)出場を目標に、各地区大会や記録会に積極的に参加させています。本校は、古くから駅伝で活躍していた経緯があり、特に一年間の中でも十一月第

一日曜日に行われる、広島県高等学校駅伝競走大会に力を入れています。

詳しくは、広島国際学院高等学校のHP(<http://www.hikok.ac.jp>)に予定や結果などをアップしていますので、ご覧いただければと思います。

●指導するにあたって、一番大切にされていることは、どんなことですか？

人 間性の向上無くして、競技力の向上はあり得ません。陸上競技部では「ただ速い選手より心の強い選手・応援される選手」になることを念頭に置き、人格形成・人間力の育成を目的としています。「ただ試合での結果を追い求めるのではなく、陸上競技を通して、挨拶・礼儀を学び、辛い練習に耐えることで、忍耐力を鍛え、自ら

課題を発見し、解決方法を探していくことで、自主性を養うことが重要である」と考えています。

つまり、本校で「陸上競技を学ぶ」のではなく「陸上競技を通して学ぶ」ことが大切であり、その結果、競技者としても、一人前の大人に成長することができると考えています。

しかしながら、高校生は三年間で卒業してしまします。その後の人生の面倒を見ることはできません。(その後も)世界や世の中の舞台に踏み出すためには自分自身で育っていく能力が不可欠なので、選手主体のクラブを作っていくのですが、「自ら育つ力・自己管理能力」を養うために、日々厳しい言葉を投げかけ、選手に気付かせていくよう指導しています。

●実際に全国高校総体(インターハイ)を経験してどうでしたか？

全 国の決勝の舞台に連れて行ってくれた選手達に感謝していますが、私自身まだまだ指導力のなさを痛感しました。

やはり、全国で勝負するのであれば、根本的な何かが足りない気がしました。

●最後に何か一言あればお願いします。

普 段 海田町の河川敷や日の浦山を練習場所として使用させていただいていますが、知らない間に、走るコースを整備して下さっている方々には大変感謝し



がんばりましたね(左端が黒田貴久監督)

をしています。そんな方々に恩返しをする意味でも、この海田の地で育った選手が一人でも多く全国や世界へ羽ばたいていけるよう、日々精進していきたいと思っておりますので、これからも応援よろしく願っています。

お忙しいところ本当にありがとうございました。